

[いよぎんホールディングス]

営業の概況

当中間連結会計期間における業績は、次のとおりとなりました。

譲渡性預金を含めた預金等は、前連結会計年度末比135億円増加して6兆8,099億円となりました。貸出金は、前連結会計年度末比2,174億円増加して5兆5,217億円となりました。有価証券は、前連結会計年度末比5,857億円増加して2兆788億円となりました。

連結経常収益は997億62百万円、連結経常費用は623億56百万円となりました。この結果、連結経常利益は374億6百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は247億33百万円となりました。

安全性・健全性を示す連結総自己資本比率（バーゼルⅢ基準）は14.78%となりました。

最近3中間連結会計期間及び最近2連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

連結会計期間・年度別 項目	2021年度中間 連結会計期間 (自 2021年4月 1日) 至 2021年9月 30日)	2022年度中間 連結会計期間 (自 2022年4月 1日) 至 2022年9月 30日)	2023年度中間 連結会計期間 (自 2023年4月 1日) 至 2023年9月 30日)	2021年度 (自 2021年4月 1日) 至 2022年3月 31日)	2022年度 (自 2022年4月 1日) 至 2023年3月 31日)
連結経常収益	— 百万円	—	99,762	—	172,954
うち連結信託報酬	— 百万円	—	0	—	5
連結経常利益	— 百万円	—	37,406	—	42,415
親会社株主に帰属する中間純利益	— 百万円	—	24,733	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	— 百万円	—	—	—	27,899
連結中間包括利益	— 百万円	—	28,200	—	—
連結包括利益	— 百万円	—	—	—	41,050
連結純資産額	— 百万円	—	784,444	—	759,838
連結総資産額	— 百万円	—	8,788,767	—	8,550,778
1株当たり純資産額	— 円	—	2,550.34	—	2,462.02
1株当たり中間純利益	— 円	—	80.46	—	—
1株当たり当期純利益	— 円	—	—	—	89.13
潜在株式調整後1株当たり中間純利益	— 円	—	80.42	—	—
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	— 円	—	—	—	89.08
自己資本比率	— %	—	8.92	—	8.88
連結総自己資本比率	— %	—	14.78	—	15.01
連結Tier1比率	— %	—	14.78	—	15.00
連結普通株式等Tier1比率	— %	—	14.78	—	15.00
営業活動によるキャッシュ・フロー	— 百万円	—	8,208	—	△ 368,753
投資活動によるキャッシュ・フロー	— 百万円	—	△ 552,289	—	234,070
財務活動によるキャッシュ・フロー	— 百万円	—	△ 3,683	—	△ 12,804
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	— 百万円	—	817,055	—	1,364,804
従業員数	— 人	—	3,060	—	2,986
〔外、平均臨時従業員数〕	〔—〕	〔—〕	〔1,204〕	〔—〕	〔1,257〕
信託財産額	— 百万円	—	1,670	—	1,589

- (注) 1. 当社は、2022年10月3日設立のため、2022年度中間連結会計期間以前の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 2. 2022年度の連結財務諸表は、単独株式移転により完全子会社となった株式会社伊予銀行の連結財務諸表を引き継いで作成しております。従って2022年度には、株式会社伊予銀行の第2四半期連結結果計算期間が含まれております。
 3. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計 - (中間)期末新株予約権 - (中間)期末非支配株主持分)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出してしております。
 4. 連結総自己資本比率、連結Tier1比率及び連結普通株式等Tier1比率は、銀行法第52条の25の規定に基づく2006年金融庁告示第20号に定められた算式に基づき算出してしております。当社は、国際統一基準を採用しております。
 5. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、連結会社のうち該当する信託業務を営む会社は株式会社伊予銀行1社であります。